

グローバル化時代における 中小企業の国際交流

～日中経済交流研究会の活動から

2011年3月11日、リーマンショックから徐々に立ち直りつつあった日本経済を東日本大震災が直撃しました。日本の惨状はユーチューブやフェイスブックといった新たな技術により世界中へ発信され、海外からの援助の輪が瞬く間にできあがりました。日本がグローバル社会の一員であることをいや応なしに実感させられました。長年、グローバル化を避けて通れないと感じ、活動しているのが、大阪府中小企業家同友会の日中経済交流研究会です。その活動の一部を報告します。

■日中経済交流研究会の発足

日中経済交流研究会は、中国が「改革・開放」へ路線を変更し、急激な成長の過程に入る1987年から活動を開始しました。同年には、第一次訪中団を江蘇省の政府関係者との交流を図る目的で派遣しました。同友会の中でも歴史のある研究会のひとつです。

この研究会の大きな柱は、例会の開催と訪中団の派遣です。例会では、①中国へ進出している同友会会員企業の事例報告 ②中国人経営者との意見交換 ③訪中団参加者からの報告 ④研究者を招いての今後の日中関係の勉強会、などを1年間計画立てて行っています。いずれも参加してよかったという感想が数多く聞かれます。また、毎年10月には、協力協定を締結している呉中区（注）を訪問し、現地政府関係者と懇談し、進出企業を訪問して、現状把握に努めています。同友会の訪中団では、参加者の希望を募って訪問先を決定することが原則になっており、業種別にローカル企業を訪問したり、そこで働くワーカーの自宅訪問など、他の視察旅行ではスケジュールに組み込まれることのない体験も重ねています。それらは、日本国内にいて、マスコミ報道などでは知ることのないものも多く含まれていて、参加者の関心を高めています。

■グローバル社会における中小企業

外国製品の大量流入や海外への工場移転は、国内産業の空洞化を進め、国内雇用の喪失につながるという危惧はもちろんです。

しかし、グローバル化の時代において、製造業の海外企業

との競争は、好むと好まざるに関わらず発生する問題です。そして、それは、製造業だけの問題ではなく、観光などのサービス業や大学や高校といった教育機関を含むあらゆる業種に影響を与えています。

製造業における海外進出は、顧客ニーズに応えるものでした。その結果として、産業の空洞化があったとしても、人の空洞化は絶対に阻止しなければなりません。人は、より豊かな生活を目指し、グローバル化の時代を生き抜いていかねばなりません。労使見解にも「経営者である以上、いかに環境がきびしくとも、時代の変化に対応して、経営を維持し発展させる責任があります」と書かれています。すべての企業が海外進出をすれば成功するなんてことはありません。成長する中国をはじめ、東南アジアや南アジアにはありとあらゆるリスクがあります。顧客を見つめ、自社の商品を見つめ、その中で海外市場を見つめ、果たして自社はどうしていけばいいのかを考えなければなりません。それが経営者の仕事です。つまり決断です。決断するには決断できるだけの情報と知識が必要です。それがリスク



▲ 会社訪問

工場見学 ▶

軽減につながります。

研究会の仲間は、活動を通じて、生きた中国情報と接しています。中国進出の先輩たちは、その知る情報を包み隠すことなく仲間に語り、それがまた語りつがれるという連鎖もあります。プラス面だけではなくマイナス面も必ず伝え、中国をはじめ、海外進出の覚悟を深めるものとなっています。この根本には、いい会社を作ろうとする仲間に、利益はないけれど、成功してほしいという思いがあります。

■いい会社にする、を共有して

孫子の言葉に「彼を知り、己を知れば、百戦して危うからず」とあります。単独であの広くて深い中国を知ろうとすることは無謀です。だからこそ、いい会社にするという理念を共有する仲間が必要で、それが、日中経済交流研究会の存在意義です。中国が万能薬であるはずがありません。ただ、経営者が決断を下す材料をお互いに共有する場がここです。

7月14日に例会を開催します（詳しくは本誌29ページ参照）。報告者の中辻社長はこの研究会の会長も務めた方です。熱のこもった報告も聞けると思いますが、それ以上に、いい会社を作るために質疑応答などで深めていけると思いますが、皆さんの参加待っています。

< 日中経済交流研究会役員 >

会長

タカラ産業株式会社 会長 樋爪 伸二

副会長（訪中団担当）

阪和化工機株式会社 代表取締役 町井 秀年

副会長（例会担当）

三恵ハイプレジジョン株式会社 代表取締役 落合 良寛

副会長（広報担当）

金剛運輸株式会社 代表取締役 和気 金昭



▲ 樋爪会長

例会スケジュール

（9月以降は未定です、決定次第月刊誌等で発表します）

- 7月 報告者 株式会社 大喜金属製作所
- 14日 代表取締役 中辻 康氏
テーマ 大震災後のグローバル戦略を考える
- 9月 中国人経営者を交えての意見交換会
（グローバル化と企業経営）
- 12月 訪中報告会
（報告者3名程度を予定、生きた情報を聞きます）
- 2月 研究者を招いての学習（新しい日中関係）

行ってよかった訪中団

坂元鋼材（株）

代表取締役 坂元 正三

（東大阪西支部）



訪中団は新しい出会いにあふれています。ふだんは例会、懇親会でさよなら。でも中国では24時間が一緒。さまざまな経営者と出会い、話題になるのは日本や中国、そして自社の経営のこと。すでに中国に進出されている先輩経営者から工場を案内してもらったり、移動のバスや飛行機では「経営の極意」を教えられたり、また他支部の方々とは仲良くなったりと、まるで年に一回の「修学旅行」です。新しく、深い人脈を作るなら、訪中団。行かない手はありません。



▲ 2010年訪中団

訪中団スケジュール

2011年10月15日(土)～20日(木)

訪問先 蘇州の会員企業ならびにローカル企業

（参加者の希望を募り訪問先を決定します。）

呉中区政府記念式典

（呉中区政府挙げての華やかな式典です。壮大な花火が上がります。）

義烏（イーウ）市場（世界最大級の日用雑貨の卸売市場）

予算12万円（概算）

詳細は8月ごろ決定します。決定次第月刊誌等で発表します。

入会希望者は下記まで

年会費10,000円 1日わずか27円の学びの会です。

問い合わせ先 事務局 河合まで

例会、訪中団共に、日中経済交流研究会の会員でなくても参加できます。